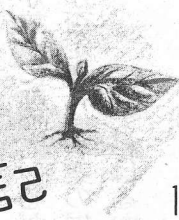


3・11後を生きる

東北復興日記



141

福島県民の拠点になればと思いい、自費で東京の駒場東大前に立ち上げた「番來舎」(目黒区駒場一の二八の一の三〇四)が早いもので半年が経過し、実にさまざまな方との出会いがあります。福島から関東の大学にデビューした大学生や避難している若い家族などと交流を持つ場になったり、相談室として活用した



ベテランママの会 主宰
番場さち子さん



東京の福島人サポーター

りしています。相談事も十人十色です。一人一人、お話を伺っていますと、背景の悩みが見えてきます。

ある福島出身の大学生の相談には、その親御さんと後日話し合いもしました。最初は私の話に感情的だった親御さんでしたが、何度も時間をかけて話し合いを重ね、お子さんの悩みを分かっていたことができました。私はこのような小さなお手伝いもしています。震災後、今までと違う非日常が日常化して、何が正しくて何が間違っているのか、そんなことすら簡単に判断できなほど疲れきっている人

たちもいます。少しでも何かのお役に立てれば、の思いでかわらせていただいています。

番來舎ではイベントも月に何度か開催し、かわりを持ちやすくしています。東京デビューした福島人を元気づけるための「ほっこりご飯の会」||写真||は新たな出会いを生み、福島人と東京人の交流の場となっています。料理研究家の高橋典子先生の「食育講座」は健康意識の高い主婦の皆さまからおいしくて簡単だと好評です。

くである坪倉正治医師の「よくわかる放射線教室」を、正しい情報を知りたい方のために開きます。十三日には「はじめの福島学」の著者で社会学者の開沼博先生に「福島学イン駒場」と称し、地域の皆さまや福島の関係者にも足を運んでいただくことで、風化防止を呼びかけます。

十四日は数学が苦手な学生のための数理哲人先生の「数学をやっつける方法」の講習も。ぜひお出かけいただければうれしく思います。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

今月十一日には、私たちベテランママの会のライブワ